

YOU'S Mail news

JR西労組中央本部
青年女性委員会

2010年2月18日 NO. 128

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号(西阪急ビル9F)

・TEL 06-6375-9869 ・JR 071-7155

○発行責任者：迫原 良介 ○編集責任者：堂屋敷 光

メール登録：<http://wjru.com>



「JR西労組ダイレクトニュース」

JR連合・民主化闘争勝利に向けた2.17総決起集会

民主化闘争「決戦の年」 不退転の決意で臨もう！！



集会アピール

本日、私たちは「民主化闘争勝利に向けた2.17総決起集会」を開催し、浦和電車区事件の被害者である吉田光晴氏のJR東日本復職を契機に、民主化闘争勝利に向け組織の総力をあけて闘い抜く決意を固めあった。

私たちJR連合組合員と交遊したことなどを理由に、JR総連・東労組が吉田氏を「組織破壊者」と断定し、集団的な脅迫行為で退職にまで追い込んだ浦和電車区事件は、革マル派が浸透、支配するJR総連・東労組の暴力的運動の象徴である。組織のためには人間の尊厳を平気で踏みつける彼らの体質は、今もなお、何も変わっていない。事実、吉田氏の8年半ぶりの復職に対して、「会社による吉田との和解・採用に満腔の怒りをもって抗議する」などとして、和解に応じたJR東日本に猛反発している。

労働組合の任務は、働く者の助け合いを通じて幸せを築くことにある。その労働組合で、自らに不都合な者を集団でいじめて退職に追い込むなどという行為が許されてよいはずはない。そのような悪行は、最高裁においても、上告が棄却され、断罪されることになるのは必至である。

浦和電車区事件は「氷山の一角」であり、JR総連・東労組が最大組合として存在する以上、根本的解決にはならない。JRに安全を確立し、真に安心して働ける職場を築くためには、JR総連に浸透している過激派・革マル派を排除しなければならない。

今回の吉田氏の復職によって、JR東日本の労務姿勢の変化が明らかになった。いま、会社は吉田氏の就労における安全の確保にむけ、万全な措置を講じている。そこからは、JR東日本の職場で「二度と浦和電車区事件のような事象は起こさせない」という会社の決意も読みとれる。

しかし、吉田氏のハンドルの依然として「奪われたまま」である。JR東日本の運転職が真に「安全で安心して働ける職場」となり、吉田氏が運転士として復帰できるまで、私たちの闘いは終わらない。

私たちは、2010年を民主化闘争の「決戦の年」と位置づけた。吉田氏復職という被害者救済運動の成果を糧に、正義の闘いに勝利するため、不退転の決意で臨むものである。

2010年2月17日
JR連合・民主化闘争勝利に向けた2.17総決起集会



JR西労組組合員の協力により、頂いた「檄布」

中央本部桑谷副執行委員長から

浦和電車区事件被害者の「吉田 光晴氏」へ

集会で確認された、「集会アピール」